

総括

全36項目の地域アクションプランについて、実行支援チームを編成し、それぞれのプランの目標の達成を目指して取り組みを進めている。

その結果、目標達成に向けて克服すべき課題が残されたものもあるが、高精度トマトの生産体制の強化やブランド化の推進、カット野菜の加工場の整備による新たな雇用の創出等の成果も現れてきている。

観光面では、仁淀ブルーの知名度の向上やツアー客の増加に加え、体験・滞在型観光の拠点となる大手アウトドアメーカーの監修・運営によるキャンプ場のオープンや酒造工場を核とした体験型交流事業の立ち上げなど、仁淀川地域の一層の魅力向上と交流人口の拡大が図られた。今後とも、市町村や関係団体、民間事業者等との連携協働により、それぞれの目標達成に向けて各地域アクションプランの取り組みを推進していく。

これまでの取り組みの成果等

◎各分野の取り組みの成果と今後の方向性

■農業分野

高精度トマトについては、ブランド化の確立や選果ラインの高度化により、着実に品質の向上につながっており、販売額が1.8億円増加する等、成果が上がっている。

今後は、安定的に高精度・高収量が得られる栽培技術の確立と普及による生産・出荷体制の強化を図る。

また、地域の特徴的な産品である仁淀川流域茶の販売拡大や薬用作物の栽培地の拡大を推進する。

■林業分野

佐川町の自伐型林業の取り組みでは、町と森林所有者が長期施業管理契約を締結し林地の集約化を図ったことにより、効率的な施業地の確保につながるとともに、地域おこし協力隊の積極的な採用により、林業就業者の継続的な確保にむすびついている。

また、H28年に開設したさかわ発明ラボを通じて、木材を活用したもののづくりを推進するとともに、学校教育等とも連携した人材育成を行っている。

今後は、森林資源を余すことなく活用するための施設整備に取り組み、林業経営の持続化や地域経済の活性化を目指す。

■水産業分野

宇佐の一本釣うるめいわしを原料にした加工場を増改築（H28）するとともに、首都圏での物産フェアや商談会への出展など積極的な外販活動を推進することにより、売上が順調に伸びている。

今後は、一層の売上アップに向け、新たな加工品開発や鮮魚の販路開拓などを進めるとともに、原材料を安定的に調達するうえで課題となる漁業者の確保に取り組む。

■商工業分野

カット野菜事業については、新工場の整備（H29）により生産能力が向上するとともに、衛生面でも強化が図られ、販売額の向上と新たな雇用の創出につながっている。

また、地域産品を活用した加工品の開発・販売の取り組みでは、ユズやトマト、文旦等を使用した冷菓の製造販売をはじめ、沢渡茶の知名度向上や売上アップに向けたカフェの整備や加工品の販売を通じて、地域経済の活性化につながっている。

■観光分野

近年の仁淀ブルーの知名度向上や（一社）仁淀ブルー観光協議会の取り組みなどにより、入込客数は着実に増加している。また、日高村での屋形船運航による、より幅広い客層が川に親しむことのできる体験の提供や、大手アウトドアメーカーの監修・運営による越知町キャンプ場のオープンなど、交流人口の拡大に向けた動きが進展している。

今後は、関係者による連携強化やさらなる周遊促進の取り組みを進め、一層の誘客を目指す。

◎地域アクションプランによる雇用の創出（H28～R元） 262人

主な取り組み事例

No.3 力強い高精度トマト産地の確立

地域：仁淀川町、佐川町、日高村
実施主体：JA高知県（仁淀川地区）、民間企業等

取り組みの内容	・次世代型の環境制御技術を活用した生産技術の強化 ◎◎ ・(株)コモアグリスポートを設立し、研修ハウスでの栽培を開始 ◎◎
主な成果	・トマト売上高 ◎：4.6億円 → ①：6.4億円 ・雇用の創出 ①：47人
今後の方向性	・関係機関と連携した研修生の受入体制及び就業支援体制の強化 ・生産者への個別指導の徹底による栽培技術の向上



No.18 地域産品を活用した冷菓等の製造販売

地域：いの町
実施主体：(有)高知アイス

取り組みの内容	・生産設備の拡充 ◎ ・直営売店の改修 ◎ ・県販HACCP第3ステージ認証取得 ◎ ・国内外の商談会等への出展
主な成果	・冷菓等の売上高 ◎：3.75億円 → ①：4.76億円 ・雇用の創出 ◎：28人 → ①：42人
今後の方向性	・国内外での販路拡大に向けた商談会等への出展 ・新商品開発チームの立ち上げ



No.25 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進

地域：仁淀川地域全域
実施主体：(一社)仁淀ブルー観光協議会 等

取り組みの内容	・流域市町村等と連携した旅行商品の企画・セールス ・仁淀川流域の観光情報の国内外への発信 ・日本版DMO登録 ① ・流域連携イベントの開催
主な成果	・仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数 ◎：4,153人 → ①：8,014人 ・主要観光施設の入込客数 ◎：216,458人 → ①：281,991人
今後の方向性	・自然を生かしたブランド構築と情報発信の強化による認知度向上 ・地域資源の掘り起こしと磨き上げによる来訪者満足度の向上



No.12 自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化

地域：佐川町
実施主体：佐川町、自伐型林業に取組む個人・団体

取り組みの内容	・林地の集約化 ◎～ ・森林資源総合活用施設の整備検討 ◎～ ・さかわ発明ラボの開設 ◎ ・地域おこし協力隊の採用（自伐型林業、発明ラボ）
主な成果	・林業関係新規就業者数 ◎：5人 → ①：17人 ・山林の集約化面積 ◎～①累計：426ha
今後の方向性	・林地の一層の集約化 ・森林資源総合活用施設の整備 ・さかわ発明ラボの独立運営に向けた体制整備



No.19 (株)フードプランのカット野菜事業等の展開による雇用の確保と販売拡大

地域：仁淀川町
実施主体：(株)フードプラン 等

取り組みの内容	・新工場の整備 ◎ ・県販HACCP第3ステージ認証取得 ◎ ・事業戦略の策定 ・野菜の産地形成に向けた仕組みづくり
主な成果	・売上高 ◎：4.4億円 → ①：7.4億円 ・雇用の創出 ◎：60人 → ①：91人
今後の方向性	・近畿圏への販路拡大に向けた輸送ルートの確保や消費期限延長の検討 ・端野菜を活用した新商品開発 ・町内を中心とした野菜生産の仕組みの構築



No.34 体験型観光の拠点となるキャンプ場の整備による交流人口の拡大と地域の活性化

地域：越知町
実施主体：越知町

取り組みの内容	・スノーピークおち仁淀川キャンパフィールド（日ノ瀬エリア）のオープン ◎ ・スノーピークかわの駅おちのオープン ① ・町内店舗周遊スタンプラリーの実施
主な成果	・キャンプ場宿泊者数 ◎：8,853人（H30営業スタート）→ ①：10,648人 ・雇用の創出 ◎：4人 → ①：11人
今後の方向性	・キャンパフィールドの一層の情報発信及び活用促進 ・かわの駅の取扱商品や運営体制のさらなる充実 ・中心市街地への誘客につなげる仕組みづくり



農業 林業 水産業 商工業 観光

※○囲み数字は時点を表す
例)平成29年度=◎
令和元年度=①

No.13 宇佐の一本釣うるめいわしのブランド化

地域：土佐市
実施主体：(企)宇佐もん工房

取り組みの内容	・加工施設の増築及び加工機能の拡充 ◎ ・「一本釣うるめ祭り」の開催等によるPR
主な成果	・うるめ商品の売上高 ◎：61,550千円 → ①：108,555千円 ・雇用の創出 ◎：17人 → ①：19人
今後の方向性	・うるめ漁師の確保 ・商談会への出展等によるさらなる販路開拓 ・新たなうるめ商品の開発



No.20 仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進

地域：仁淀川町
実施主体：仁淀川町、(株)ババ沢渡
町内の6次産業化に取り組む事業者

取り組みの内容	・拠点施設（カフェ）の整備 ◎ ・新商品の開発 ・拠点施設での地域産品販売及び観光情報の発信 ・高知市内に新規店舗オープン（2号店◎、3号店①）
主な成果	・主要事業者の売上高 ◎：50,000千円 → ①：120,418千円 ・雇用の創出 ◎：5人 → ①：47人
今後の方向性	・拠点施設を中心とした加工品のさらなる販売促進 ・茶産業を持続させるための後継者及び担い手の確保・育成



No.35 「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化

地域：日高村
実施主体：日高村、(株)屋形船仁淀川

取り組みの内容	・地域住民による屋形船ガイドの実施 ◎ ・通訳機器の導入によるインバウンド対応の強化 ◎ ・フリーWi-Fiの導入による通信環境の整備 ①
主な成果	・乗船者数 ◎：3,261人 → ①：7,393人
今後の方向性	・雨天時の代替メニューの造成及び冬期における集客対策



第3期計画で設定した数値目標に対する評価

数値目標の達成状況について、以下により4段階評価を実施
 ※1つの地域アクションプランで複数の数値目標を設定したものもあるため、
 下記の件数と地域アクションプランの数とは一致しない

区分	数値目標に対する評価基準		件数	構成比
A+	第3期計画の 取り組み開始	・目標を達成したもの → 目標の達成率（または達成見込率） が100%以上	27件	45%
A	時と比べて、 数値を改善	・目標をほぼ達成したもの → 達成率（または達成見込率）が 60%以上100%未満	6件	10%
A-	もしくは維持で きたもの	・目標の達成に向けて十分な進展が見られな かったもの → 達成率（または達成見込率）が 60%未満	13件	21.7%
B	第3期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの		14件	23.3%
評価計			60件	100%
—	実績値がまだ出ていないなどの理由で現時点の評価ができないもの、または目標の設定がないもの		1件	

主な支援策の活用状況 (①②④:H28～R元 ③:H28～H29)

- | | | |
|------------------------|------|-----------|
| ① 産業振興推進総合支援事業費補助金 | 7事業 | 172,882千円 |
| ② 観光拠点等整備事業費補助金 | 14事業 | 460,795千円 |
| ③ 歴史観光資源等強化事業費補助金 | 4事業 | 66,968千円 |
| ④ 専門家の派遣（産業振興アドバイザー事業） | 38件 | 130回 |



○(企)宇佐もん工房新加工施設
 H29.4月稼働開始
 地域AP No.13
 H28年度産振補助金



○(株)フードプランカット新工場
 H30.3月稼働開始
 地域AP No.19
 H29年度産振補助金



○スノーピークおち仁淀川
 キャンプフィールド
 H30.4月オープン
 地域AP No.34
 H28～29年度観光拠点等
 整備事業費補助金

課題の克服やさらなる成果の拡大に取り組む主な重点項目

項目	見えてきた課題・方向性	さらなる挑戦
No.1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進	生産者の減少や高齢化と後継者不足が一層深刻化する中、茶産地を維持・拡大していくためには、高品質な茶の継続的な生産や作業の省力化を推進するとともに、商品の高付加価値化を図り、一層の消費拡大につなげることが必要である。	◎生産者の減少や高齢化が進む中においても茶産地を維持できる仕組みを構築する。 ・優良茶園の維持 ・自走式茶園管理機の導入拡大による省力化の推進 ・煎茶、ほうじ茶及び発酵茶等の商品力向上 ・仕上げ茶販売量の増加 ・仁淀川流域茶の知名度向上と消費拡大
No.17 いの町中心市街地の活性化	中心市街地の事業者や周辺事業者をはじめ、地域住民・商工会・商業振興会・行政機関等で構成されるいの町中心市街地活性化協議会（H30.8月設立）において、いの町中心市街地活性化計画を策定。（H30.12月） 策定時のワーキンググループが中心となって計画を実行しており、今後も、計画に基づいた取り組みを推進する中で、商店街事業者や住民などを新たなプレーヤーの参画を促しながら、計画の着実な実行や新たな取り組みの掘り起こしなどの具体的な振興策につなげていくことが必要である。	◎中心市街地活性化計画で定めたアクションプラン（行動計画）に基づき、ワーキング等を通じた振興策の具体的な実践を行う。 ・地域資源（「職」「食」「遊」）ごとのワーキンググループ等による具体的な事業の実施 ・事業の実施に際して、商店街の事業者や住民など新たなプレーヤーが参画した体制づくり ・空き店舗対策の検討 ・計画地域内の遊休施設の民間アイデア導入等による有効活用策の検討 ・活性化協議会や関係者間によるアクションプラン（行動計画）の進捗状況等の共有による活性化計画の進捗管理
No.24 「村の駅ひだか」を拠点とした交流人口の拡大と地域の活性化	トマトをはじめとする村内産の新鮮な農産物等の販売により順調に売上を伸ばしてきているが、夏期における農産物不足や出荷者確保に向けた出荷体制の改善が必要。 また、観光協会設立に伴い、観光情報の一元化や情報発信、日高村内をはじめ仁淀川流域の関係者間での連携が必要である。	◎安定した直販所の運営に向け、品揃えの充実や出荷体制の確立等に取り組む。 ・運営検討会等の開催による商品・月別の売上分析と課題の把握、継続した品揃え等改善策の検討 ◎観光案内拠点の拡充による運営体制の強化 ・観光情報発信拠点としての機能の拡充 ・ガイド組織間での連携促進 ・仁淀川地域の関係者間での情報共有会議の開催等
No.25 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	仁淀ブルーとしてメディア等への露出も増え、知名度は向上しているが、全国的にはまだまだ認知度が低いため、継続した情報発信が必要である。 また、自然景観を目的とした来訪が多く、単一エリアのみに滞在する傾向が高いことから、地域への周遊を一層促進し、観光消費額を上げることが必要である。	◎仁淀ブルーのさらなるブランディングと仁淀ブルーDMO観光戦略による広域的な観光地づくりを推進する。 ・継続したセールス活動と情報発信の強化による認知度の向上 ・地域内消費拡大のため、仁淀川流域の特性を生かした体験プログラムの造成や特産品開発サポート等の取り組みを実施 ・地域資源の掘り起こしと磨き上げによる観光客の満足度の向上 ・観光を切り口とした地域づくりを継続して行っていくための（一社）仁淀ブルー観光協議会の地域マネージメントの強化
No.34 体験型観光の拠点となるキャンプ場の整備による交流人口の拡大と地域の活性化	H30.4月のスノーピークおち仁淀川キャンプフィールドのオープンとR元.6月のスノーピークかわの駅おちのオープンを契機に、県内外から幅広い年代の多くの観光客が訪れている。 こうした新たな人の流れを大いに活用し、町内の店舗や周辺の観光地への周遊、また体験型観光の促進につなげ、地域への経済効果を拡大させることが必要である。	◎町内や周辺地域への周遊を促す仕組みを構築することにより、観光客等による地域への経済効果を拡大する。 ・町内店舗への周遊を目的として実施しているスタンプラリーの内容の磨き上げなど、さらなる誘客促進策の検討と実践 ・キャンプ場施設での観光情報の発信等を通じた、観光客等の町内や周辺地域への誘導 ・指定管理者と連携した、仁淀川流域の特性を生かした体験プログラムの造成や特産品の開発 ・（一社）仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信